

シンポジウム

ネオニコチノイド系農薬の生態系影響

主催：公益財団法人 日本自然保護協会

協力：国際自然保護連合日本委員会

後援：日本生態学会、日本野鳥の会、WWFジャパン、ラムサール・ネットワーク日本



近年、世界中に普及したネオニコチノイド系農薬などの「浸透性殺虫剤」がハチや鳥など生物の減少を招いているのではと、国際的な論争が起っています。しかし、影響把握が難しいことや利便性が高いことから、規制や代替案についての議論は進んでいません。本シンポジウムでは、国際自然保護連合や国内の専門家をお招きし、浸透性殺虫剤の基礎知識や生態系影響の実態を学ぶとともに、今後の適正利用に向けた議論を行います。

日時：2015年 **11月21日** (土) 13:30 ~ 17:30 (受付13:00~)

場所：東京大学 弥生講堂 一条ホール

アクセス：東京メトロ東大前駅(南北線) 徒歩1分
根津駅(千代田線) 徒歩8分

お申込み：なるべく11月19日までに下記インターネットフォームからお申し込みください。難しい場合は当日参加可能です。

参加費：**500円**

お申込み先： 日本自然保護協会
THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN



■ お申込みフォーム：<https://goo.gl/IG78Sm>

■ 詳細ウェブサイト：
<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/satomoni/2015/09/1121.html>



プログラム

■基調講演 13:45～

ネオニコチノイド系殺虫剤の生態系影響と『世界的な総合評価書 (WIA)』の公表

マーテン・ヴァン・レクスモンド

(国際自然保護連合 (IUCN) 浸透性殺虫剤タスクフォース委員長)

プロフィール

WWFの国際事務局スタッフや国際自然保護連合の生態系管理委員長等を経て、2009年に浸透性殺虫剤タスクフォースの委員長に就任。以来、この化学物質の生物多様性、特にハチ類やチョウへの世界的な影響と、公衆衛生学的影響についての調査に精力的に取り組んでいる。



■事例報告 14:30～

「生態系サービスと農業、そしてネオニコチノイド」

マイケル・ノートン(欧州アカデミー科学諮問委員会/東京工業大学)

「長期フィールド調査から明らかとなったアキアカネの激減」

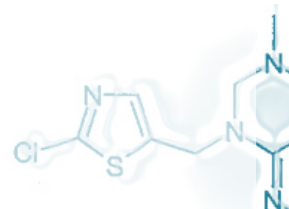
二橋 亮(産業総合研究所)

「ネオニコチノイド系農薬の生態リスク評価及び実態調査」

五箇 公一(国立環境研究所)

「農薬問題の解決に必要な視点」

本山 直樹(千葉大学名誉教授)



■パネルディスカッション 16:20～

■閉会 17:30



ネオニコチノイドとは…

タバコの有害成分ニコチンに似ているため、ネオニコチノイドという名前が付けられました。高い有害性が問題視されていた有機リン系農薬に替わって、1990年代に登場した新しい農薬・殺虫剤です。同じような性質をもつフィプロニルとあわせて「浸透性殺虫剤」ともよばれ、少量で長く良く効く農薬として8種類ほどが世界中で幅広く使用されています。しかし、高い浸透性・残効性・神経毒性という特徴から、生態系や人体への影響が近年問題視されており、各国で研究が進められています。2014年には国際自然保護連合の研究グループ浸透性殺虫剤タスクフォースより「世界的な総合評価書 (WIA)」が公表され、その生態系影響の大きさが指摘されています。

～お問い合わせ先～

(公財)日本自然保護協会 自然保護部
〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミヨビル2F
Tel : 03-3553-4104 / Fax : 03-3553-0139
Mail : satoyama@nacsj.or.jp



自然のちからで、明日をひらく。

日本自然保護協会

THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

このシンポジウムは、アクト・ビヨンド・トラストからの助成をいただいています